

平成 31 年 4 月 22 日
総務委員会事務局

オープンサイエンスの推進に向けた協会の行動計画(案)

(趣旨)

- ・ 「理事会付託事項への対応に関する当面の進め方について」(平成 30 年 12 月 26 日, 理事会)に基づき、オープンサイエンス等にかかる国の政策動向への対応として、3 月末までに理事会に提案することを想定する。
- ・ オープンサイエンスのうち、研究データ管理、オープンリサーチデータの推進のため、会員館の取り組みを支援することを目的とした協会の行動計画とする。
- ・ 短期(1~2 年)と中期(3~5 年)に分けた計画とする。
- ・ 学術コミュニティ、政府、大学等の動向や変化に応じて柔軟に変更、修正しうるものとする。

(計画)

- ・ アドボカシー活動の推進
 - 短期：会員館の構成員各層（経営層、ミドル層、担当者）に対する情報共有、啓発の活動を行う。
(例) 国大図協総会で研究データ管理、オープンリサーチデータをテーマとした研究集会を行う（主に経営層、ミドル層を対象）。海外、国内を取り混ぜた実践例を学ぶテーマによる国大図協シンポジウムを開催する（主に担当者を対象）。
 - 中期：学内における図書館以外の関係部署との連携の円滑化について諸団体と協議を進める。
(例) 国立大学協会、日本学術会議など関連団体との協議により、研究データ管理、公開に関わる関連組織・部署（情報センター、研究推進部門、URA 等）との連携を進めるために必要な方策を検討する。
- ・ 人材の育成及び確保
 - 短期：外部組織と連携し、データマネジメント人材の育成プログラムの作成に協力する。
(例) NII, JPCOAR の RDM トレーニング教材の開発に協力する。
 - 中期：短期期間に育成した人材をさらに講師ができる人材へと育成する。
(例) 地域、研究分野等に応じて大学におけるデータマネジメント実務の講義、講習等が行える人材の育成を図る。
- ・ 先導的事業の推進
 - 短期：協会予算の一部を充当し、会員館（複数の会員館による連携事業を推奨）の

優れた計画に対する助成を行う。

(例) ビジョン推進事業（平成 31 年度まで）の後継事業として、平成 32 年度から実施。数プロジェクトに対して年間総額 100 万円程度を協会予算から助成。

- 中期：協会の横の連携を図った事業を計画し、外部資金の獲得を図り、実施する。
(例) 分野別の会員館グループのオープンデータ計画に対して、外部資金（民間系、財団系等）の助成申請を後押しする。

※ 下線箇所は総務委員会において行動計画を検討する際、具体的なイメージを喚起するための例示であり、実施に当たってはそれぞれ別途、検討・調整を要することに注意。

以上